2021年９・２３久保山愛吉さん追悼行動

焼津のつどい

焼津市弘徳院

白菊の花とともに
・今年３月にお亡くなりになった大石又七さんの写真
・愛吉すずのばら
・絵本『ばらの祈り～死の灰を越えて』のアメリカ議会図書館収蔵証明も手向けました

墓前に核兵器廃絶誓う

第五福竜丸の久保山さん命日　焼津で追悼行事

1954年、米国が太平洋・ビキニ環礁で行った水爆実験で被ばくし、半年後に死亡した焼津漁港所属の遠洋マグロ漁船「第五福竜丸」元無線長、久保山愛吉さんの追悼行事が23日、焼津市で行われた。オンラインでの集会も行われ、参加者は核兵器廃絶を誓い合った。

23日は久保山さんの67回目の命日。久保山さんの墓がある同市浜当目の弘徳院で集会を開いた。墓前に献花して故人の冥福を祈った。

主催団体の一つ、県原水爆被害者の会の石原洋輔会長（浜松市東区）は「原水爆の被害者は私を最後に、という久保山さんの言葉を胸に核兵器のない世界へと行動していく」と誓った。

追悼行事は被害者の会などでつくる「3・1ビキニデー県実行委員会」が毎年、実施している。恒例の墓参行進は昨年に続き、新型コロナの影響で中止した。

オンラインの集会では、ことし3月に87歳で亡くなった同船の元乗組員大石又七さんの義妹河村恵子さん（牧之原市）が講演した。

河村さんは亡くなった大石さんの思いを引き継ぎ、事件を語っていく考えを明らかにした。「決して風化させてはならない。静岡から発信していく」と述べた。（焼津支局・福田雄一）

久保山愛吉さんの墓前に大石又七さんの写真を置いて手を合わせる参列者＝23日午前、焼津市の弘徳院

核廃絶　墓前に誓う

久保山さん没後67年で追悼

静岡・焼津

米国の水爆実験により人類最初の水爆犠牲者になった第五福竜丸の無線長・久保山愛吉氏が亡くなり67年目の命日となった23日、静岡県焼津市とオンラインで追悼行動が行われました。主催は2021年3・1ビキニデー静岡県実行委員会。

久保山氏の墓がある焼津市の弘徳院では、約30人が集まり墓前で誓いのつどいが行われました。久保山氏の遺影に、核兵器廃絶に向けた決意を述べ、墓前に菊の花をささげ誓いの祈りをしました。

主催者代表の石原洋輔・県原水爆被害者の会会長は「唯一の戦争被爆国の日本政府が核兵器全面禁止の運動の先頭に立つことを引き続き求める。久保山さんの『原水爆の被害者は私を最後に』の言葉をかみしめ、核兵器のない世界へさらに運動を進めましょう。核兵器の非人道性を訴え、原爆の実相を語り、条約批准を求める運動にいっそう尽力する」と語りました。

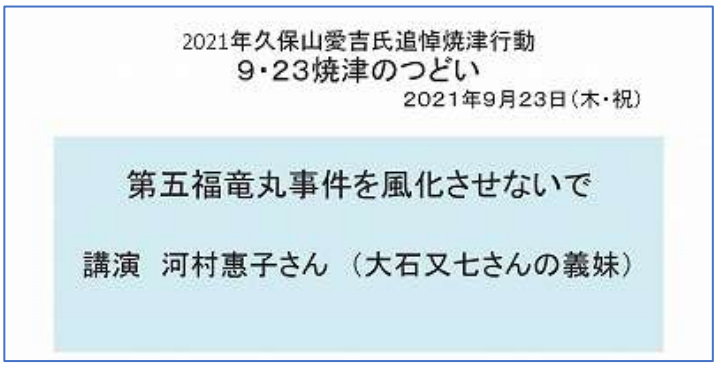
中野弘道・焼津市長のメッセージが代読されました。日本科学者会議静岡支部の水谷洋一事務局長、自由法曹団静岡県支部の小笠原里夏事務局長が誓いの言葉を述べました。

オンラインのつどいでは、故大石又七氏（第五福竜丸元乗組員）の義妹・河村恵子氏が「第五福竜丸事件を風化させないで」と題して講演しました。

久保山氏の遺影（右下）を前に核兵器廃絶への決意を述べる石原氏＝23日、静岡県焼津市・弘徳院

第五福竜丸事件を風化させないで

2021年　9．23　焼津の集い
焼津市三区コミュニティ防災センター



今年2021年はビキニ事件から67年目になります。半世紀以上の歳月が流れましたが、核問題については、遅々として進まず、事件そのものの風化すら恐れます。思えば1954年太平洋ビキニ環礁でアメリカ軍の水爆実験が極秘に行われた事件、終戦から、9年後、冷戦下のアメリカの核の恐怖が日本を襲ったビキニ事件、第五福竜丸被爆事件です。

昨年、9月23日、私は初めて「焼津の集い」に参加させてもらいました。あの事件を、今でもこのように多くの人たちが語り継ぎ、平和の在り方を考えていてくれたことに感動しました。同時に福竜丸乗組員の大石又七の義妹として何をしていたのかと自分に問いかけました。

昨年のコロナ禍でも、「西から昇った太陽」の映画が上映され、参加者全員が、深い思いの中に「過ちを2度と繰り返さない。この事件に学び、核廃絶を願い、平和への道を」と主張する主催者に只々、頭が下がりました。感謝で涙が溢れました。その夜、「この感動を叫ばねば」と思い、私は朝日新聞「声」の欄に投書しました。

「ビキニ事件を風化させることなく、語り継ぎ、同じ過ちは決して繰り返さぬように」

という趣旨で掲載されました。その投稿文を、読ませていただきます。

第五福竜丸事件伝え続けたい

9月23日は、アメリカが1954年に太平洋ビキニ諸島で実施した水爆実験により被爆したマグロ漁船第五福竜丸乗組員、久保山愛吉さんの66回目の命日であった。当日、地元の静岡県焼津市内で開かれた集会では、世界を震撼とさせたこの事件をテーマにした

「西から昇った太陽」が上映された。元乗組員三人の声も入った貴重な記録に、息も継がずに 75 分見入った。

この映画は、アメリカの若き映画監督がアメリカの若者たちに、悲劇の実態を訴えるために制作したという。市民団体により、現在多くの市町で上映されているそうだ。

本来なら、被爆国である日本は、世界に率先して、核兵器禁止条約の批准を積極的に押し進めなくてはならないはずである。広島、長崎に原爆が落とされてから９年後、第五福竜丸は「死の灰」を浴びた。その事実を抱えても批准しない愚かさ。

ここ静岡県でも、事件を知らない若い世代が増えていることを感じる。だが、原子力や再生可能エネルギーについて知ることが、平和実現と環境保全への取り組みの第一歩となるだろう。乗組員の親族の一人として、そうした輪を広げる努力をしたい。

声 Voice 朝日新聞2020.10.2

第五福竜丸事件 伝え続けたい

主婦 河村 恵子（静岡県 72）

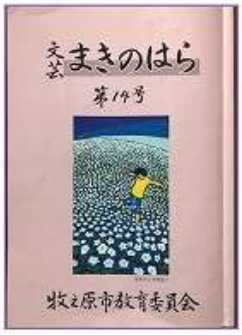
8月29日は、米国が1954年に太平洋で実施した水爆実験により被曝した、マグロ漁船「第五福竜丸」の事件、久保山愛吉さんが亡くなった日だった。当日、私たち静岡県民は「死の灰」を浴びた。その事実を抱えても批准しない愚かさ。

ここ静岡県でも、事件を知らない若い世代が増えていることを感じる。だが、原子力や再生可能エネルギーについて知ることが、平和実現と環境保全への取り組みの第一歩となるだろう。乗組員の親族の一人として、そうした輪を広げる努力をしたい。

実は、当時兄は、脳梗塞の手術後、体調を崩し、神奈川の療養施設でベッドの人でした。「焼津の集い」のこと、新聞の記事のコピーを送りましたが、当時は、ペンは持てなくなっていたようで、返事はありませんでした。コロナ終息後、兄に会いに行こうと思いました。

この投稿は、昨年 10 月２日の事でした。核兵器禁止条約は、今年ようやく１月に発効し、７月には 55 ケ国の批准を達成しましたことは、皆さんご存じのことと思います。唯一の戦争被爆国日本は、アメリカの傘の下、政府は、条約発効に対して、批准もしないこと、オブザーバーとして、意見を述べることすらも、世界に、日本国内にも、きちんと表明していません。あいまいで毅然とした発信をしていません。広島、長崎の記念日にも出席したのにも関わらず、何も語らず、失態だけが、国民の記憶にあるのみの情けなさです。国としての立場すら臆しているようでは、何の希望も持てません。世界はどのようにこの日本を見ているんでしょうか。この国の指導者は、世界の平和と安全について、俯瞰的視野に立てる人が居ないでしょうか。あいまいな国日本、ビジョンの持てない日本で良いのでしょうか。

実は、一昨年前、大石又七の妻、私の姉、信子が亡くなり、私の祈りにも似た償いと思いを、牧之原市の文芸誌に、**「姉に想う、第五福竜丸」**という随筆を投稿しました。この焼津の集いに関わっている粕谷たか子さんが、この文芸誌を偶然読み、声をかけて頂き昨年の「焼津の集い」に招かれたことが、この会へのきっかけになりました。この偶然の出会いに深いご縁を頂き、その後、静岡県母親大会や、平和の集いなどで、私の拙い話をする機会を粕谷さんから、何度も頂くようになりました。



牧之原市民による作品集（2019年版）

姉に想う
―第五福竜丸―
静岡県 河村 恵子

私はいつも思う。今を生きる私達一人一人は、次世代、未来に安心して、夢と誇りの持てる世界を継承してゆくことが、責任使命であると。

私は田舎原町時代に、六人兄弟五番目として生まれた。決して裕福とは言えない環境であったので、ささやかな夢と野心を持ち、真面目で勤勉であった。十歳年上の姉は、静かで努力家。当時として、はるかに大の読書家であった。活版に食本屋があり、五円で借りることが出来たので、兄の読って太宰治や歌石を貪り読んだが、宮沢賢治も、我家の人気者であった。姉は、本と本の間にいつも「宮澤の子」

私は、あまり裕福でない農家の６人兄弟で、姉は 10 歳、歳が離れておりました。我が家の前に教会があり、姉は熱心に聖書を読み、教会に通っていました。いつも聖書を愛読書のように読んでいました。洗礼を受けると言った時には、南無阿弥陀仏にアーメンはダメだ、と父親が反対しましたが、熱心なクリスチャンでした。その教会の慈善活動で、福竜丸乗組員のお見舞いに、東京の病院に夜行列車で行き、自分一人だけでの勝手な想いで、彼を救いたいと覚悟を決めて来たようです。詳細は、私がまだ小学生でしたので、姉は語ることはありませんでしたが、周囲は大騒ぎだったそうで、我が家にもピカドン、ピカドンの言葉が降り注ぎました。私はまだ小さかったので、事の本質は、知りませんでしたが、恐ろしい言葉を浴びせられていることはわかりました。二人は、廻りの騒ぎをすべて封印、寡黙を貫き結婚し、東京の雑踏に居を構え生

活を始めました。当時、両親は毎日のように泣いていたことを記憶しています。父は、「いくら貧しいとはいえ、ピカドンなんかでなく、嫁入り先はあるだろう。親として情けない」と口癖でした。それでも親です、姉の最初の子どもが死産であった時から、常に姉を心配していました。父は、筆まめな人でしたので、手紙を書き、姉からも返信が必ずあったそうです。二人は、事件も身元も、出身もすべてを封印して、東京という都会の雑踏に身を潜め、寡黙を貫き生きることを決めたのだと、後に父から聞きました。兄や姉にとっては、恐ろしい、惨めで辛い日々であったでしょうし、今考えても、二人の道は石ころの遙かな道であったと思います。でも兄も、姉も必死で、命の限り生き抜く決心をしていたと思います。被爆の影響も、将来の道筋も、当時は何の情報とてなかったはずです。

又七さん
信子さん
結婚

二人は、縁あって、クリーニングを修業し、クリーニング店を営み必死で働いていました。その間、私達兄弟を東京見物に招待してくれ、ボーとしていた幼い私や妹に、「一生懸命勉強して、田舎を超えて、都会で前を向いて自分の力を精一杯生かす生き方をしなさい。生きるとは、必死に生き抜くことだ。」とあちこち案内してくれました。その当時、私達には、東京は夢のようなところでしたが、その後の私達の生き方の大きなヒントになりました。姉の葬儀の時、息子が、「母は、とにかく働き者で、2時前には寝た記憶がないくらい一生懸命働いた。貧しい中、大学にも行かせてもらい嬉しかった」としみじみ言っていました。子供は 2 人、娘と息子、今はそれぞれ伴侶に恵まれ、子供にも恵まれ幸せな家庭を築いています。

東京でクリーニング店を開く

信子さん
又七さんと信子さん

「お父ちゃんが
優しかったから」
と語る信子さん

兄は、東京の夢の島に第五福竜丸展示館ができたころから、中学生、高校生に事件を語り始め、やがて語り継ぐ必要を強く心に抱き、福竜丸被爆事件、核廃絶について語り続け、風化してはならないと「自分の役目」と決め、事件の語り部となることを決め、それまでの鎧を脱ぎ捨てました。そして、生涯かけて、決めた道をひたすら真面目に向きあっていました

第五福竜丸展示
館・マーシャル
で話をする
大石又七さん

10 数年前でしたでしょうか、兄は故郷の榛原郡吉田町教育委員会から、「死の灰を浴びて、第五福竜丸」という題で、講演を頼まれました。もちろん、事件後「放射能はうつる」というあらぬ噂や、貧しい漁師がピカドンに会い国から大金をもらったなど、蔑視や偏見で、疲れ果て、故郷を逃れるように東京に隠れ住んだ人間です。でも兄は、正しい事実を語らねばと引き受け、再び故郷の地を踏み話しました。私も夫と聞きにゆきましたが、饒舌ではないけれど、一語一

語噛み締めて、語る兄の姿勢に、拍手を送りました。そのころから、兄は頼まれればどこにでも出かけ、事件を語り、平和であることの意義、核の平和利用などありえないことなどあちこちで話すようになりました。頼まれれば、全国どこにでも出かけ、講演回数は、実に 700 回に及んだそうです。歴史に書き残さなくてはと、本も５冊出版し、自分の想いを未来につなげる努力を惜しみませんでした。兄は、貧しい中で、学を積んでいませんでしたから、本当によく勉強しながら、歴史書で歴史を学び、哲学書を読み、新聞を何紙も読み、読書を重ね語彙を増やし、本当に努力していました。パソコンまで駆使し、私など到底かなわぬくらい努力していました。そんでなければ、本の出版など出来なかったでしょう。私も兄の本をすべて読みましたが、多くの皆さんに読んでもらいたいと思うくらい価値ある書籍です。

子どもたちに700回以上話をした大石又七さん

吉田町の講演で、私の当時の手帳にこんな内容が走り書きを見つけました。

「被爆に対する怒り、仲間を失った悔しさを、俺はとても我慢できない。
核の脅威は、どこか空気のようで、ともすれば忘れてしまう。しかし、
核兵器が存続し続ける以上、また世界のどこかで「死の灰」を浴びる人がでる。
そんな愚かなことがあってはならない。俺たちの苦しみ、惨めさを繰り替え
してはならない。」

心から振り絞るような叫びにも感じました。

兄はいつも言っていました。兄は事件を通して、自分の役目は「核廃絶への道を開く事」と決めたそうです。人間は、必ず死ぬ。第五福竜丸乗組員だったからこそ、生命をかけ、核廃絶を掲げ、平和への道しるべを開いて行くために語る、それがこの世の俺の役割」であると。

兄は、今年、コロナ禍の中、３月７日に人生を全うし、天に召されました。享年、87 歳でした。

2021年3月7日大石又七さんご逝去（87歳）

兄は、貧しい家に生まれ、幼くして父親を亡くし、５ 人兄弟の長男として、家系を支えるために漁師となり、福竜丸に乗り、水爆実験にであい、その後の人生を、必死で生き抜いた人です。事件そのものに、寡黙を貫き、東京の雑踏に紛れ込むように生き抜いた人です。しかし、義理の妹であり、親族である私は、貧乏学生時代、兄の家に居候し、うっすらと知っていたビキニ事件も忘れ、兄の苦しみに心を傾けることもなく、自分の人生の夢のみ追いかけていた愚か者です。

今は、どんなに兄に詫びても詫びきれるものではないことを知りながら、これから兄の想いの一旦を身内の一人として、ビキニ事件を風化させぬよう、語り継いで参りたいと心に賭しております。

実は、先月８月９日、牧之原市主催の平和の会で、「西から昇った太陽」の上映が行われました。

市の配慮で、全市内の中学校、高校生に学校で各人に映画上映案内のチラシを配布、市内各区の回覧板で、廻していただけるということになりました。びっくりしました。そして映画会のあと私に話をしてほしいという依頼、企画が計画されました。関係者によると、なかなか実現できる企画ではないと言われました。コロナ禍であることから、市民ホールに 100 名ほど集まり上映会が行われました。とても残念なことですが、せっかく中学、高校生にという市の計画でしたが、若い中学生、高校生は少なかったです。私は中学校の評議委員をしておりますので、中学校に質問しましたら、チラシの説明は何もしなかったそうです。私が甘かったです。評議委員として、学校に働きかける努力を怠りました。みんな、関心がないこと、歴史として学んでないことを知りました。現在の学校教育では、現代史をおろそかにしていることが分かりました。その親も若いので知らない。先生たちも、知っているような、知らないような。結論は、私の認識不足、努力不足でした。次回はこの失敗を生かして、学校に働きかける努力をしたいと思います。ここは静岡県です。ここから発信努力をせずして誰が語り継ぐのか、真剣に反省しています。

最後に、今年８月の朝日新聞の文化欄にこんな歌がありました。兵庫県の男性でした。

「何のための犠牲か」問い続けきて

大石　又七はついに斃れし

今後、可能な限り、兄の想いと愚かな事件を繰り返さない核禁止を、地球の未来の平和のためにできる限り、兄の想いを伝えるバットンタッチを終え、次のランナーに引き継ぐべく、核の受け入れがたい苦痛と被害、破滅の事実を発信し続けたいと、覚悟をもって光を求めて歩んでまいりたいと思います。

最後に、私が 74 年生きて参いることが出来たのは短歌、歌の力に支えられてきたことです。核の歌５首披露させて頂き、終わります。

デモもせずストも忘れたこの日本

長いアメリカに巻かれて生きる

ビキニ忌の核廃絶を説く声に

コロナ禍ゆえか街は応えず

原発はだれがため原爆はだれがため

問えば重たしこの国の明日

核を知れるは広島長崎焼津にて

日本という国にはあらず

虹消えて地球に核の残りけり

ご清聴ありがとうございました

焼津会場にて河村さんのお話をオンラインで配信。視聴に参加した人たちで記念写真

『ばらの祈り～死の灰を越えて』追記　Postscript

2021 年は、アメリカが行ったビキニ水爆実験ブラボーショットから 67 年目となります。
この絵本が 2018 年に出版されたときは、自らの体験を様々な場で熱心に語ってくれていた第五福竜丸の 3 人の漁師さんが、その後次々に亡くなってしまいました。2019 年 2 月 25 日見崎進さん（92 歳）、2020 年 2 月 20 日池田正穂さん（87 歳）、2021 年 3 月 7 日大石又七さん（87 歳）と、旅立たれました。

大石又七さんのご逝去は、とりわけ無念でなりません。
私にこの絵本を日英二か国語で出版させたのは、大石又七さんの言葉です。2010 年、NPT（核不拡散条約）再検討会議に合わせてニューヨークで行われた核兵器廃絶を求める国際行動に参加した時、ニューヨークで大石さんに会いました。大石さんは「ビキニ事件と第五福竜丸のことを知っているアメリカ人はほとんどいないよ。」と寂しそうに言っていました。私は大石さんのこの言葉が忘れられず、アメリカの人々にビキニ水爆・第五福竜丸被災のことを知ってもらいたいとずっと願ってきました。
アメリカで多くの人たちがこの絵本を読んで、原水爆による悲劇を繰り返さないように考えていると、大石さんに報告できる日が一日も早く来ることを望みます。

The year 2021 is the 67th year of the Bikini Hydrogen Bomb Test, Bravo Shot, conducted by America. Three of "The Lucky Dragon No.5" fishermen who had eagerly talked about their experiences in many occasions when this picture book was published in 2018 passed away one after another; Susumu Misaki, on February 25th, 2019 at the age of 92, Masaho Ikeda on February 20th, 2020 at the age of 87, and Matashichi Oishi, on March 7th, 2021, 87 years old.

I am saddened to hear about passing away of Matashichi Oishi. Matashichi Oishi's words made me decide to publish this picture book both in Japanese and English languages. I met him in New York City at the time of international peace action for NPT review conference in 2010. He said very sadly, "Here in America, few people know about the Bikini Incident and Daigo Fukuryu Maru." I haven't forgotten his words and have hoped to share the story with people in the USA. I do hope that many people in America will share this picture book and raise awareness so that the tragedy caused by atomic and hydrogen bombs will not be repeated.　　(June 3, 2021)

粕谷たか子　Takako Kasuya Email: takako-k.521@cy.tnc.ne.jp

『ばらの祈り～死の灰を越えて』 アメリカ議会図書館収蔵について
左側は、アメリカ大使館からのお礼　右側は、LIBRARY（図書館）の目録

絵本「ばらの祈り～死の灰を越えて」アメリカ議会図書館収蔵

先日は、絵本『ばらの祈り～死の灰を越えて』をご恵贈いただき、誠にありがとうございました。先月、お心のこもった別紙追記と共に、米国議会図書館に送付され、無事受理されましたので、謹んでご報告申し上げます。この素晴らしい本を手に取るアメリカの読者にも、平和への祈りのメッセージが届くことでしょう。この度は、誠にありがとうございました。

アメリカ大使館　広報・文化交流部　　2021 年 8 月 19 日

"The U.S. Embassy in Tokyo was pleased to facilitate the donation of Ms. Takako Kasuya's book "Bara no Inori" to the Library of Congress.　"Bara no Inori" will be a noteworthy addition to the rich diversity of materials in the Japanese Reference Library within the Asian and Middle Eastern Division."

Embassy Spokesperson - Christopher Quade　September 2nd, 2021

「東京駐日アメリカ大使館は、粕谷たか子さんから寄贈された『ばらの祈り』を、米国議会図書館に送付し、収蔵されました。『ばらの祈り』は、米国議会図書館のアジア・中東部門の日本参照図書に注目すべき豊かな多様性をもたらすでしょう。」

米大使館報道官　クリストファー・クエード　2021 年 9 月 2 日

LIBRARY OF CONGRESS

LIBRARY　CATALOG

1. Bara no inori : shi no hai o koete = A prayer of roses : overcoming ashes of death

LCCN	2021389426
Type of material	Book
Main title	Bara no inori : shi no hai o koete = A prayer of roses : overcoming ashes of death / gensaku Iizuka Toshihiro ; saku, e Sasaki Etsuko, Yabe Masami ; eiyaku Nagata Suweko, Kasuya Takako ; kyōryoku Shin Eiken Shizuoka Shibu ; kōetsu Keith Reimink.
Published/Produced	Shizuoka-ken Tagata-gun Kannami-chō : Teshigoto Kasaya, 2018.
Description	52 unnumbered pages : color illustrations ; 22 x 30 cm
LC classification	RA569 .B365 2018
Portion of title	Shi no hai o koete
Parallel title	Prayer of roses : overcoming ashes of death
Related names	Sasaki, Etsuko, 1951- editor. Iizuka, Toshihiro, author. Yabe, Masami, 1961- illustrator. Nagata, Suwako, translator. Kasuya, Takako, translator. Reimink, Keith, editor.
Summary	On March 1, 1954, the United States conducted an atomic bomb test at Bikini Atoll. The Japanese fishing boat Daigo Fukuryuu Maru, with its crew of 23 men, was contaminated by the fallout, and the crew suffered from acute radiation syndrome following the test. Most of the men recovered, but Aikichi Kuboyama died within eight months, becoming the first fatality of nuclear testing. His widow, Suzu Kuboyama, became an activist for banning nuclear weapons and testing. She spoke at many conferences in Japan and around the world, advocating for peace.
Subjects	Iizuka, Toshihiro. Shi no hai o koete : Kuboyama Suzu-san no michi. Kuboyama, Suzu, 1921-1993. Daigo Fukuryū Maru (Trawler) Daigo Fukuryū Maru (Trawler) Nuclear weapons testing victims--Japan--Yaizu-shi--History--20th century. Hydrogen bomb--Marshall Islands--Bikini Atoll--Testing. Nuclear weapons testing victims--Japan. Nuclear disarmament--Citizen participation. Antinuclear movement--Japan. Operation Castle, Marshall Islands, 1954. Antinuclear movement. Nuclear disarmament--Citizen participation. Nuclear weapons testing victims. Japan.
Notes	This picture book was transferred from the film Day of the Western Sunrise, directed by Keith Reimink (2018), which in turn was based on the original book Shi no hai o koete : Kuboyama Suzu-san no michi, by Iizuka Toshihiro (Kyoto : Kamogawa Shuppan, 1993). Text in Japanese and English parallel text. Description based on 2nd printing, 2019.
Language code	jpn eng
Geographic area code	a-ja--- poxe---
Other system no.	(OCoLC)on1085574326
Content type	text
Media type	unmediated
Carrier type	volume
CALL NUMBER	RA569 .B365 2018 Japan Copy 1